

みらいく木育レター

みらいくの木育テーマ

「自然と遊びながら 自然から学び 自然と共に心と体が育つ」



木育遠足

～雨の中の森あそび～

2026.5

つちざわの森

森散策で発見した実を見せながら、「イチゴとブドウとリンゴ」とお話ししてくれました。



雨天決行で森あそび

このクラスの子たちがつちざわの森に遠足に来るのはこれが2回目。昨年度に来た時は年中さんでした。焚き火で焼き芋をしたり、穴の開いた葉っぱを探したり、落ち葉の坂を転がったりしたことを覚えていて、「知ってる森」として認識していました。学年が1つ上がり、前回の秋とは違った季節、そして小雨の中、子どもたちはどんな発見をしてどんな遊びを展開するのでしょうか。園長先生をはじめ先生たちは、遠足当日が雨かもしれないということは予想していました。それでも中止にはせず「雨の森を楽しむ」という計画を立ててきました。その心意気が素敵だなと思いました。日本では雨だと外で活動しない傾向が強いですが、イギリスやドイツ、デンマークや北欧などでは幼児教育において「自然の中で過ごすこと」を最優先し、天候に関わらず屋外で活動します。私が以前訪れたスウェーデンやフィンランドの幼児施設には、びしょ濡れになった服や靴を乾かすための乾燥室が備わっていたほどです。これは、しとしと雨の天候が多く、夏が短くて冬は日照時間が極端に短いという気候の特徴があるためということもありますが、「フリルフスリフ＝どんな天気であっても、自然の一部として屋外で過ごすことが人間の幸せにつながる」という言葉があるような文化もあります。今の日本は熱中症の心配をしなければならない期間が長いので、屋外で活動できる時間は大事にしていきたいものです。

夢中になって遊ぶと、発見と学びがある



「あそこ！コケあったよ！」

「水を100入れるんだよ」
実験に没頭中



森のベースに着いたとたん、「ねえ！これ見て！」「あー！ここに虫がいる！」と様々な発見に声をあげ、「なになに？」「どこ？」と走り寄る子どもたち。中には「これは〇〇虫だよ」と先生も私も知らない虫の名前を教えてくれる子も。

ここだけでも十分楽しい。森の中では、先生お手製の『フィールドビンゴ』からスタート。少人数のグループに分かれて探検です。「ねえ！これ木の実だよ」小雨が降ったり止んだりしていましたが、みんな全く気にしていません。子どもの好奇心による探索活動を先生たちも一緒に楽しみながら、どんどん森を上がっていきます。普通には歩けないようなところも、行ってみたいと思ったら手をついて登っていく。前に行く子を追いかけて、自分も行きたいけど怖い、怖いけど行きたい。しばらく葛藤する子ども。そんな時は、「自分で行けると思ったらおいで。怖いと思ったら回り道しておいで」と声をかけて見守ります。



落ち葉がふかふか面白いね。足の裏の感覚センサーを刺激することは、脳の発達や運動能力（体幹やバランス感覚）を育むためにも効果的です。



自分の好きな草や花や虫？！を自由に採ってセンサリーボトル作りも。虫を入れた子は水を入れていませんでした。ほっ



「ここから行きたいの！」

